★ 総合力の春高

「ねえ、また薬送ってよ・・・プロトンポンプ阻害剤とH2ブロッカー・・・

今何がある？・・ガスモチンもほしいな・・・」

臨床と大学院の掛け持ちからくる緊張、疲労は私の度量を超えていた。

（再び）胃潰瘍になってしまった私は、友人の内科医に

薬をもらう生活を続けていた。

しかしそんな生活もついに3月で終了し、今は新たな体制、

所属形式をとるための手続きや証書の登録に追われている。

決してそれは余裕綽々の時間割ではないのだが、

昨年までよりは明らかに余裕は増えたといえる。

再び春高陸上部の活動を応援する体制が整ったのであった。

四月の東部大会では走、跳、投ともにバランスのとれたチーム力を確認した。

新人戦で解析された課題を確実に改善していると感じた

「総合準優勝」であった。

そして県大会を前に、監督から選手の成長の過程や目標レベルを聞けた。

卒業した選手達の進路や陸上活動状況も教えてもらえた。

昨年も監督から、それぞれの選手の目指す方向性や

環境などを教えていただいていたが、監督自身も

相当疲労している事が伝わってきた。

★ 大塚監督への心配

全国入賞、全国制覇を成し遂げるまでのストレスとプレッシャー、

成し終えた後のまた異なるプレッシャー・・・

監督はこの数年、様々な重圧と闘ってきた事は間違いないだろう。

私はふと心配になった。

大塚さんは、責任を背負いすぎているのではないだろうか。

春高陸上部監督業の敷居をそこまで上げなくともよいのでは・・・

と感じてしまうほど、学生の成長を真っ正面から向き合い、

常に学生の事を考えているのだ。

あまり試合成績における良し悪しのすべての責任を、

監督自身がしょいこみすぎない方がよいのでは・・・・

と、心配になったのであった。

★ OBの応援とは？

ひとつには、インターハイコラム「赤き・・」で、

さんざん盛り上げすぎてしまった事も私の頭にあった。

監督、選手の血のにじむ努力によって、ここ数年続いたインターハイ奮戦記。我々はOB

なので、試合戦跡がよければ無論うれしい。

どんなに大変かも分かっている。

しかし全国で戦える選手を毎年輩出できる入試環境

ではないのも同時に知っている。

従って、選手の活躍がどうといって選手を見放すはずもない。

20年前、30年前は自分も当事者だったからこそ分かるのだ。

合宿や試合に行くたびに毎回OBが駆けつけてくれていた。

コラム「赤き・・」も決してスター選手の賞賛にのみ記したわけではない。

総勢900人に及ぶOBの方々にとって、現役の活躍が少しでも具体的、

画が浮かぶかのごとく伝えられれば・・・と思ってはじめた事であった。

特に究極の順位ともいえる昨年の成績を考えると、

今年の三年生や監督は言い知れぬプレッシャーを

感じてはいないだろうかと、余計な心配にもなった。

だが考えてみればわかる。

インターハイ入賞が続いたこの数年で感覚が

やや麻痺しているかもしれないが、「全国入賞＝普通ではありえない事」である。

いま頑張っている「春高陸上部」の活躍こそが、「通常の春高」なのだから。